

福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を 与えるリスク総点検に関わる対応状況

2015年8月25日
東京電力株式会社



東京電力

検討状況

リスク総点検において、190項目（液体漏出：159項目、ダスト発生：31項目）について抽出し、体系的に整理した（4月28日公表）。
整理結果を受けた総点検後の対応状況を示す。

- 「対策が必要」と評価した21項目については、対策の実施内容及び実施時期の計画を策定した（前回報告済）。
- 「調査が必要」と評価した45項目については、調査方法の検討、調査計画の立案などを実施し、スケジュール表に取り纏めた（次頁以降参照）。
- その他、124項目については、総点検において「対策済み」、「対策中」、「リスクが十分に低い」と整理しており、今後実施するリスク総点検の定期的な見直しにおいて、これら対策の効果や廃炉作業の進捗に応じた状況の変化を確認し、継続的に管理していく。
- 現在対策中の項目及び今後調査・対策を実施する項目については、各対策の優先順位を考慮しつつ、全体としてリスク低減となるよう、必要な調整を行っていく。

検討状況

■「調査が必要」と評価した45項目※についての状況を以下に示す。

※対応の進捗や内容に応じ都度分割・統合等を行っており、枝番を含め56件名のスケジュール表にて示している。

○「調査実施済」の件名については、調査結果から対策要否を検討し、対策が必要と判断した件名は順次対策計画の立案、対策の実施を進めている。(下表①、②)

調査の結果、汚染が確認されなかった件名は対策不要と判断したが、今後実施する定期的な総点検の見直しの際に、状況の変化を鑑み評価する。(下表③)

○「調査実施中」の件名については、調査結果を受け対策要否を検討する。(下表④)

○「調査計画立案済」の件名については、サンプリング時期が集中している件名の優先順位付けなどの調整を行い、調査を実施する。(下表⑤)

○「調査方法検討中」の件名については、引き続き、方法の検討を進め調査計画を立案する。

高線量箇所等により調査が困難な件名は廃炉作業の進捗を鑑み、中長期的に調査・対策の検討を行う。

敷地境界外に影響を与えるリスクが小さい件名は、他の優先度の高い件名の進捗を鑑み、調査計画を立案する。(下表⑥)

No.	行状		件名数	例
①	調査実施済	対策実施中	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3号機周辺瓦礫置き場 ・2号機廃液サージタンク
②		対策要と判断	1	<ul style="list-style-type: none"> ・集中RW中和用硫酸・苛性タンク
③		対策不要と判断（汚染が確認されない為）	1	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外変圧器油貯蔵タンク防油堤
④	調査実施中		13	<ul style="list-style-type: none"> ・各建屋の屋根 ・薬品タンク
⑤	調査計画立案済		22	<ul style="list-style-type: none"> ・5, 6号循環水系設備 ・サイトバンカ建屋滞留水
⑥	調査方法検討中		16	<ul style="list-style-type: none"> ・1～4号原子炉建屋内既設設備 ・7・8号試掘坑

検討状況及び今後の計画

①調査実施済 対策要／対策実施中

: 対策対応 : 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール									
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降
1-1	3号機周辺瓦礫置き場	3号機SFP内から瓦礫撤去を実施中であるが、撤去した瓦礫の汚染が、雨水とともにK排水路から流出する可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> 燃料交換機吊下ろし時は、落水対策として床面のシート養生を実施 小割解体前に飛散防止剤を散布(解体期間中も適宜散布を実施) 小割解体した瓦礫は、適宜瓦礫保管場所へ運搬 (燃料交換機を含むプール内大型瓦礫撤去作業を2015年10月末までに完了予定)	SFP内大型瓦礫撤去作業 									
2-1	集中RW重油タンク 集中RW軽油タンク 海生物処理設備重油タンク	危険物の漏えいのリスクがある。	重油・軽油タンクについては、タンクより抜き出し、危険物貯蔵庫へ保管。 海生物処理設備重油タンクは、津波の影響を受けておらず、異常は確認されていない(目視確認)ことから、28年度に抜き出しを計画している。	集中RW重油タンク抜き出し完了 集中RW軽油タンク抜き出し(準備作業含む) 									
3	2号機廃液サージタンク	2号機廃液サージタンク内には、震災前に運用していた、集中環境施設の廃液濃縮器等の凝縮水が貯蔵されており、放射能レベルは比較的低いが、タンクは屋外に設置され、タンクの腐食等により中の廃液が漏えいする恐れがある。なお、漏えいした場合でも全量受入可能な堰が設けられている。	撤去予定 (タンク内部水は、2015.8より抜き取り2号RW/Bへ移送)	タンク内部水の排水 									

検討状況及び今後の計画

②調査実施済 対策要／対策計画立案済



: 対策対応



: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
2-2	・ 1～6号RW及び集中RW中和用硫酸・苛性タンク ・ 5・6号機中和用硫酸・苛性タンク	薬品が漏えいする。	中和用薬品タンク（硫酸・苛性）については、定期的に点検中											タンク点検 	

検討状況及び今後の計画

③調査実施済 対策不要判断



: 対策対応



: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
4	屋外変圧器油貯蔵タンク防油堤 絶縁油貯蔵タンク防油堤 予備変防油堤 所内共通変圧器防油堤	屋外変圧器油貯蔵タンク防油内や予備変防油堤内の雨水が汚染しているとB、C排水路から汚染水が海洋へ流出することが懸念される。	サンプリングで汚染が確認されなかった。												

検討状況及び今後の計画

④調査実施中

: 対策対応 : 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
5-1	・焼却工作建屋屋根 ・サイトバンカ建屋屋根	屋根面で雨水が汚染して排水路に流れ込んでいるリスクがある。	屋上面の瓦礫散布状況、線量分布、ルーフトレイン及び排水経路、雨水の汚染状況等の調査を行う。	目視調査、線量調査、排水路調査 											
6	【1～4号機R/B等屋根】 ・1～4号機Rw/B ・1号機R/B大物搬入口屋上 ・プロセス主建屋 ・高温焼却炉建屋 ・共用プール建屋 等	屋根面で雨水が汚染して排水路に流れ込んでいるリスクがある。	屋上面の瓦礫散布状況、線量分布、ルーフトレイン及び排水経路、雨水の汚染状況等の調査を行う。 プロセス建屋調査一部実施中。	プロセス主建屋等線量低線量屋根部1mSv/h以下:現場目視調査、線量調査、排水路調査 											
7	地面・立木（フェーシングを予定していない箇所）	フェーシングを予定していない箇所箇所から海へ雨水が流出する。	人が侵入可能なエリアにて、線量率および土壌サンプリングを継続実施し、現状把握を行う。	現状実施している線量率測定ならびに土壌サンプリングを継続 000											
8	・固体廃棄物貯蔵庫	建屋内の排水枡に雨水等が流入し、建屋内に溢れるリスクがある。	現状のたまり水は微量であるため、降雨時に状況を確認し、対策が必要となるか、経過観察を行う。	定期的な状況観測 000											

検討状況及び今後の計画

④調査実施中

: 対策対応 : 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール									
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降
9	泥落とし場	泥に付着した汚染が水と一緒に地下水として海に流出する。	整備車両泥落とし場の空間線量測定を実施。	洗浄場測定 									
10	地面等に付着したダストが風等により飛散	地面等に付着したダストが風等により飛散する。	連続ダストモニタによるダスト測定を実施中。ダスト濃度が上昇した場合は、その原因となった作業の個別調査を行い、作業実施箇所にて、必要に応じたダスト発生抑制対策を実施する。	連続ダストモニタによるダスト測定 									
11	各瓦礫類一時保管エリア	北側瓦礫置場の汚染が雨水で海に流出する。瓦礫類に付着した放射性物質が、降雨時に瓦礫表面から雨水へ移行し、側溝等（地下浸透含む）を経由して環境へ放出される。	・雨水による瓦礫類に付着した放射性物質の拡散リスクの有無を確認するため、一時保管エリア内での雨水の放射性物質濃度を確認する。 ・調査結果を踏まえ、モニタリング強化（地下水モニタリング等）および瓦礫と雨水の接触防止措置（雨水経路のフェーシング等）の実施を検討する。	調査 									
2-3	1~4号薬品タンク（硫酸・苛性）	薬品の設備からの漏えいリスクがある。現状は、タンク外観に著しい腐食は確認されていないため、バウンダリー機能は脆弱ではないと考えられる。タンク周りには堰が設けられていることから、万が一漏れても海洋へ出る可能性は低い。	薬液の処理をする上で必要な以下の情報について、調査を実施する。 ・薬液の性状、量 ・タンクの状況	調査 									
2-4	5,6号薬品タンク（硫酸・苛性）	薬品タンクからの薬液溢水。	タンク点検継続・薬品処理検討中	測定・分析 									

検討状況及び今後の計画

④調査実施中



: 対策対応



: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
12	・5号機変圧器防油堤 ・5・6号機起動用変圧器防油堤 ・6号機変圧器防油堤	防油堤内の水が漏えいし、地下水（開渠内）として港湾へ流出する。	分析を実施し、その後溜まり水の回収及び処理を検討する。		測定・分析 										
13-1	・5・6号HVAC系設備 ・5・6号OG系設備 ・5・6号SGTS系設備	保有している水が漏えいし、地下水として港湾へ流出する。	【HVAC系・OG系設備】 ・図面等にて系統調査を実施し、屋外のダクト・配管内に滞留水が溜まる可能性を確認する。 ・系統調査の結果に基づき、採水・分析等を計画する。 【SGTS系設備】 ・ドレンライン配管の調査を実施。		HVAC・OG系、系統調査 		SGTS系調査 								
14	5,6号機逆洗弁ピット・吐出弁ピット	たまり水が漏えいするリスクがある。	H27年度に屋根取付け等による水位上昇防止を検討する。 H28.10~H29.3 たまり水の測定・回収及び浄化処理		測定、分析 										
15	5、6号薬品タンク（硫酸・苛性）フェンス	薬品タンク堰からの雨水溢水。	降雨時のみ溜り水が発生することを踏まえ、調査を実施。		測定・分析 										

検討状況及び今後の計画

⑤調査計画立案済

: 対策対応

: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール												
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降			
16-1	集中RW排気筒ドレンサンピット	<ul style="list-style-type: none"> ・たまり水は、排気筒内、サンピット内への降雨水及び津波による海水が主であると考えられることから汚染レベルは低いと想定される。 ・サンピットは現状屋根が失われて露天状態のため、系外に漏れるリスクは高い。 ・系外に漏れた場合には、排水路、側溝を通じて海洋に出る可能性がある。 	サンピットの状況、水位及び水質調査を行う。			水位確認、サンプリング 										
17	<p>【北護岸エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿い海側へ2箇所ヒューム管・フェンス際1箇所・法肩部2箇所海側 <p>【陣場沢川河口付近】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海側へ1箇所ヒューム管（砂利に埋没）・道路側溝 <p>【敷地境界陸側エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地南側：11箇所中3箇所構内・敷地西側：1箇所池・敷地北側：8箇所ヒューム管 <p>【南護岸エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス建屋北東側側溝・斜面沿い側溝・旧B C排水路 	敷地境界の周辺排水路に汚染雨水が流出する。排水路等からの汚染水漏えい。	降雨時のみ溜り水が発生することを踏まえ、調査方針（採水方法と採取分析スケジュール等）を立案			試料採取（順次） 										
5-2	集中RW建屋 ・焼却工作建屋 ・サイトバンカ建屋	保有している水が漏れし、地下水として海へ流出する。周辺サブドレンよりも十分低く建屋水位管理を実施しており系外へ漏れるリスクは低い。	サイトバンカ・焼却工作建屋の状況把握のためサンプリングを実施し、必要に応じてプロセスへ移送を実施する。			サンプリング 										

検討状況及び今後の計画

⑤調査計画立案済

: 対策対応

: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
18	【1～4号機T/B等屋根】 ・3,4号機T/B ・1,2新S/B ・3,4新S/B ・1～4号機出入管理所 ・ストームドレン処理建屋(1,2側) ・ストームドレン処理建屋(3,4側)等 (下屋を含む)	建屋の屋上面で雨水が汚染し、排水路に流れ込むリスク	屋上面の瓦礫散布状況、線量分布、ルーフトレン及び排水経路、雨水の汚染状況等の調査を行う。			現場目視調査、排水路調査 		屋上線量調査 							
16-2	3/4号排気筒ドレンサンピット	排気筒に降った雨が、スタックサンピットに流入し、ピットから溢れる可能性がある。	サンピット内の調査(水位、水質等)を行う。			ピット内調査 									
19	5/6号排気筒ドレンサンピット	排気筒に降った雨が、スタックサンピットに流入し、ピットから溢れる可能性がある。5,6号機排気筒の汚染は非常に低いと思われる。また、R/Bの排気ファンは運転中であり、雨水の浸入も比較的少ないと思われる。	・サンピット内の調査(水位、水質等)を行う。 ・2016年度以降にサンポンプ復旧を実施。			ピット内調査 									
20	・1,2,3,4号薬品タンク(硫酸・苛性)フェンス ・No.4,5軽油タンクフェンス ・集中RW重油タンクフェンス ・No.1,2軽油タンクフェンス ・集中RW重油タンクフェンス	雨水が地下水(開渠内)として港湾へ流出する。	雨水が溜まったら放射能濃度を測定する。			試料採取(雨水がたまったら順次実施) 									

検討状況及び今後の計画

⑤調査計画立案済

: 対策対応 : 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール												
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降			
21	・防火水槽(埋設) ・浄化槽/中継槽 ・貯水槽	保有している水が漏えいし、地下水として海へ流出する。	・汚染の有無を確認するため原水槽(上水)内に滞留している水の採取を行い分析を行う。 ・地下埋設の各設備の目視調査及び水のサンプリングによる汚染状況を調査する。					(原水層内)水サンプリング調査 								
22-1	6号機D/G建屋サブドレン 等	高濃度に汚染した地下水が存在し、系外に流出するリスクがある。	現場状況を確認し、準備が整った段階で水質調査を実施。					水質調査を実施 								
23	・集中廃棄物処理建屋各系統・設備(配管・タンク・ポンプ等) ・地下造粒固化体貯槽(D) 等	集中環境施設建屋内機器(タンク、ポンプ、配管等)の内部水が漏えいし、建屋外へ放出される。タンク等から漏えいした場合は、堰内に留まると思われるが、堰の損傷があった場合に建屋外へ流出する可能性がある。また、タンク等の容器については、定期的に可能な範囲で外観点検等を実施している。	屋内設置の機器について内包水量の調査、排出方法の検討					保有水量の調査 								〇〇〇
24	・1~3号機ホールドアップ建屋屋根	建屋の屋上面で雨水が汚染し、排水路に流れ込むリスクがある。	屋上面の瓦礫散布状況、線量分布、ルーフトレイン及び排水経路、雨水の汚染状況等の調査を行う。					現場目視調査、線量調査、排水路調査 								

検討状況及び今後の計画

⑤調査計画立案済

: 対策対応 : 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
29	SPTタンク (5~6号)	保有している水が漏えいし、地下水として港湾へ流出する。	タンク内の採水は困難のため、水位計測し、漏えいの有無を確認。						タンク内部水位計測 						
30	池沼	地表面からの汚染の可能性ある雨水が公共水域へ流出するリスクがある。	汚染の有無を確認するため水の採取を行い分析を行う。						採水実施 						
13-2	【5、6号機周辺屋外既設設備】 ・5・6号FP系設備 等	汚染源となるたまり水が存在するリスクがある。	線量確認を行う。						調査 						
31	・1~4号機変圧器防油堤 ・EBSTr防油堤 ・EBTr防災地下タンク	防油堤、地下タンク内にある汚染水が流出し、雨水と共にK排水路から流出する可能性がある。	・溜まり水の有無調査 ・溜まり水がある場合は、分析調査を実施し、汚染水かを判断する。 ・汚染水の場合、排水又は固化の対策を検討し、実施する。							採水・分析 					
32-1	変圧器防災配管ピット EB用ケーブルピット	保有している水が漏えいし、地下水として港湾へ流出する。	・溜まり水の有無調査を実施 ・溜まり水がある場合は、分析調査を実施し、汚染水かを判断する。							採水・分析 					
33	構内屋上	ダストが発生するリスクがある。	崩落する危険性のある建物を調査する。									崩落する危険性のある建物を調査 	〇〇〇		
28-2	・5・6号RHRS系 ・5・6号DGSW系	5.6号機既設海水系設備内の水が漏えいし、港湾内などへ流出する。	2016年度トレンチ内水抜き完了後、調査(外観確認)実施予定。										トレンチ内水抜き後に調査を実施予定(2016年度以降)		

検討状況及び今後の計画

⑥調査方法検討中



: 対策対応



: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
1-2	【1～4号機周辺10M盤瓦礫】 ・高線量瓦礫置き場 ・低線量瓦礫置き場 ・高線量大型瓦礫（仮置き鉄骨） ・3号機瓦礫撤去用構台 ・震災当初の瓦礫（地中）	降雨時に地表面の瓦礫と触れることにより、雨水が汚染して排水路に流れ込む可能性がある。	現状の汚染源の分布状況について、目視、3D測量、線量分布、排水経路を詳細に調査し、雨を汚染源と触れさせない応急対策を立案する。また、小割解体できない瓦礫の解体方法について、各種解体技術の調査を行い、解体機械の計画を行う。	機器の解体方法の検討、解体装置の計画立案、屋根掛けの検討を実施											
34	屋外タンク天板部	屋外タンク天板部の屋根の汚染が雨水とともにK排水路へ流出する。	・タンク図面等によりタンク天板部に雨水が滞留しない形状となっていることを確認済 ・震災後相当期間経過後に設置しており、表面汚染は殆どない。またすべてのエリアに堰を設置しており、集水分析している為、追加対策は不要	35m盤タンクについては、すべてのエリアに堰を設置しており、集水分析している。 CSTタンク等については調査方法の検討を実施。											
35	7/8号機試掘坑	汚染源となるたまり水が地下水として海へ漏れいする。	・採水・分析を行う ・汚染が確認された場合、たまり水の処理を検討	調査方法検討中											

検討状況及び今後の計画

⑥調査方法検討中

 : 対策対応 : 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール																
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降							
36-1	1～4号機原子炉建屋内既設設備	原子炉建屋内に設置されている放射性物質を内包する汚染水が配管、機器の腐食等により漏れりする。	<ul style="list-style-type: none"> 配管・機器内の汚染水処理については、現状、建屋内各設備へのアクセスが困難なことから、建屋内除染や廃炉方針の進捗等を確認しながら、方針を決定していく。 原子炉建屋内に設置されている配管、機器から漏れいが発生した場合は建屋地下の滞留水と合流する。 但し、建屋内堰が未調査のため、漏れい箇所、漏れい量により、堰を超えて屋外に流出する可能性があるため、原子炉建屋1階の入域可能場所の堰の調査を行う。 																	
36-2	【1～4号機屋内既設設備】 ・1～4号機各系統・設備（配管・タンク・ポンプ等）	<ul style="list-style-type: none"> 設備内保有水が漏れりするリスクがある。但し、低濃度の汚染水及び非汚染水と思われる。 漏洩した場合建屋滞留水（高濃度汚染水）を増加させるリスクがある。 建屋内水位管理を実施しており系外に漏れるリスクは低い。 	1～4号機T/B内既設設備内の残水除去に関する調査を行う必要があるが、建屋内各設備へのアクセスが困難なことから、建屋滞留水のドライアップの進捗等を確認しながら、方針検討していく。																	
16-3	1/2号排気筒ドレンサンピット	スタック内の雨水が、筒身内線源と共にスタックサンピットに流入し、ピットより溢れ、周辺地盤に流出して汚染を拡大する可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> サンピット内の周辺調査、排水方法の検討。（2015年度） 高線量のため遠隔操作の重機等を検討。（2015年度） 水位・水質調査、排水の実施等（2016年度以降） 																	
37	2号機原子炉建屋一部解体	ダストが発生するリスクがある。	現状のダスト対策と追加検討すべき内容を立案																	

検討状況及び今後の計画

⑥調査方法検討中



：対策対応



：調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール											
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降		
38	1~4号機建屋周辺整備工事	ダストが発生するリスクがある。	現状のダスト対策と追加検討すべき内容を都度立案	解体工事が発生する都度、対策を検討・実施											
39	その他作業	屋外に設置されている放射性物質を内包するダストが、ダクト、配管の腐食等により飛散する。	・各作業において適宜ダスト発生リスクを鑑み調査・対策等を講じる。	作業発生都度検討を実施											
32-2	1~4号機サブドレン（ディーブウェル含む）（未復旧ピット）	高濃度に汚染した地下水が存在し、系外に流出するリスクがある。	調査が困難（採水困難等）で未調査のため、廃炉の進捗を見据え、調査方針（採水方法と採取分析スケジュール等）を立案。	・廃炉作業の進捗等を確認しながら、方針検討を継続											
22-2	5、6号機サブドレン（ディーブウェル含む）	高濃度に汚染した地下水が存在し、系外に流出するリスクがある。	現場状況を確認し、準備が整った段階で水質調査を実施。	準備が整った段階で水質調査を実施											
40	【1~4号機周辺屋外既設設備】 ・1~4号FP系設備 等 ・1~4号HVAC系設備 ・1~4号OG設備	汚染水が排水路に流れ込むリスクがある。	調査が困難（採水困難等）で未調査のため、廃炉の進捗を見据え、調査方針（採水方法と採取分析スケジュール等）を立案	廃炉作業の進捗等を確認しながら、方針検討を継続											

検討状況及び今後の計画

⑥調査方法検討中

: 対策対応

: 調査対応

番号	リスクの存在箇所	リスク内容	対応概要	対応スケジュール									
				7月以前	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降
41-1	1～4号機既設海水系設備	建屋内の配管と接続されている屋外配管が、腐食等により漏えいし、港湾内に流出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外建屋内配管が屋外へ接続されているRHRS、DGSW系については、2013年度に一部を除き閉止措置実施済。 ・未閉止箇所については、2015年度に閉止措置を実施する。 接続される全ての配管に閉止措置を行うことで、4m盤エリアへの流出を防止。 なお、立坑内及び建屋内地下の系統内残水処理については、今後検討する。	廃炉作業の進捗等を確認しながら、方針検討を継続(閉止措置については2015年度に実施予定)									
41-2	【1～4号機復水器・既設海水系設備】 ・1～4号機復水器 ・1～4号機循環水系 ・1～4号機ASW系	<ul style="list-style-type: none"> ・復水器冷却チューブ損傷部、CW系及びASW系配管フランジ部より建屋内高濃度汚染水が侵入し海洋に流出するリスクが考えられる。 ・復水器ホットウェル水レベルは冷却管チューブよりも低いことが確認されていること、CW系に侵入しても配管のレベル差から放水管に到達しないこと並びにASW系配管は4m盤で閉止措置を行っているため漏洩のリスクは低い。 	建屋内各設備へのアクセスが困難なこと及び硫化水素発生リスク大であることから、ドライアップや廃炉の進捗等を確認しながら、調査方針検討していく。 4m盤のASW系は閉止措置実施済み。	廃炉作業の進捗等を確認しながら、方針検討を継続									
42	2号機原子炉建屋排気設備	屋外に設置している2号機原子炉建屋排気ファン、ダクトが損傷し、ダストが屋外に飛散する。 排気ファンが故障等により停止し、2号機原子炉建屋内のダストが屋外に飛散する。	排気設備(排気ユニット・ダクト・ダンパ)について、長期計画に基づき毎年点検手入を実施。 定期的に点検を行うことで、ダストの飛散リスクを回避	廃炉作業の進捗等を確認しながら、方針検討を継続(定期的な点検を実施)									
43 44 45	1～4号機既設原子炉設備 ・HVAC系 ・AC系 ・SGTS系	屋外に設置されている放射性物質を内包するダストが、ダクト、配管の腐食等により飛散する。	<ul style="list-style-type: none"> ・建屋近傍並びに高所に設置されており、高線量箇所もあり、アクセスが困難。 ・除染や廃炉の進捗を確認しながら、各既設設備について、調査可能な代表箇所を抽出し、調査方針を立案する。 	除染や廃炉の進捗等を確認しながら、各既設設備について、調査可能な代表箇所を抽出し、調査方針を検討									